平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	文章表現基礎講座 (Basic Course of Sentence Expression) 【経営経済学部】			授業コード	A030872
担当教員名	太田　清子			科目ナンバリングコード	A10303
配当学年	1	開講期	後期		
必修・選択区分	必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	「基礎学力講座(国語)」を履修していることが望ましい。				
受講心得	教科書は必ず持参してください。ノートを用意し、国語辞典(電子辞書も可)を常に携帯するのがよろしい。予習や復習のために図書館や人間力育成センターの図書を積極的に利用しましょう。欠席や遅刻のないように、また、授業時間以外にも新聞・雑誌・本をよく読むように心がけること。				
教科書	名古屋大学日本語研究会　GK7著　スキルアップ！日本語力～大学生のための日本語練習帳～(東京書籍)				
参考文献及び指定図書	『三省堂国語辞典　第六版』(比較的小型)、江守賢治『漢字筆順ハンドブック　第二版』(三省堂)、小学館辞書編集部(編)『日本語便利辞典』(小学館)、金田一春彦(監修)『手紙の書き方辞典』(学習研究社)、『国語力アップ400問』(NHK出版[生活人新書067])、『国語力もっとアップ400問』(NHK出版[生活人新書105])、水谷信子『心を伝える日本語講座』(研究社出版)、加納善光『漢字の常識・非常識』(講談社現代新書954)、池上彰『日本語の「大疑問」』(講談社＋α新書6－1　C)、秋月高太郎『ありえない日本語』(ちくま新書524)、金武伸弥『王道日本語ドリル』(集英社新書0428E)、佐竹秀雄『日本語教室Q&A』(角川ソフィア文庫)、鈴木輝一郎『日本語の逆襲』(小学館)、清水義範『日本語がもっと面白くなるパズルの本』(光文社文庫)、樋口裕一『本当に使える！日本語練習ノート』(PHP新書622)、朝日新聞出版(編)『日本語きほん帳』(朝日文庫)。				
関連科目	社会参画入門、社会参画実習1、基礎学力講座(国語)、英語1・2、情報リテラシー1・2				

授業の目的	基礎的な国語力はあらゆる学習分野で求められる重要な要素です。大学初年度における国語教育は4年間の勉学生活の土台を提供するとともに、卒業後の社会人がもつべき一般常識を養う側面をも有します。1年次前期の「基礎学力講座(国語)」では文字表現や文章作成を学びましたが、後期のこの科目ではそれに引き続き、文章実践や口語表現を学んでさらに日本語力に磨きをかけ、それによって特に日常生活におけるコミュニケーション能力の養成を図ります。
授業の概要	第1週の前半はこの科目のオリエンテーション。第1週の後半から第15週まで教科書の第1章から第4章までを学んで行きます。敬語、文法、語彙・言葉の意味、漢字・表記を中心に日常のコミュニケーションに活かせる言語表現を徹底して練習します。 第16週に第1週から第15週までの授業内容についての期末試験を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： 半年間の学習に関するオリエンテーション。授業の進め方、出欠の取り方、遅刻・早退の取り扱い、試験の行い方、授業中の発表の取り扱い、質問の受け付け、成績評価の方法等について説明します。授業の後半では 教科書の第1章第1回　敬語の種類と使い分けを取り扱います。	第1週～第15週　授業に出る前に教科書の該当箇所をよく読み、練習問題を解いてみること。必要に応じ辞書(国語辞典等)を引くこと。
第 2 週 ： 教科書の第1章第2回　注意すべき敬語	教科書P18～P20を読み、P21の練習問題およびP23の応用問題をとくこと。
第 3 週 ：	

教科書の第1章第3回　配慮を示す言葉	教科書P24～P26を読み、P27の練習問題およびP29の応用問題をとくこと。
第 4 週 ： 教科書の第2章第4回　品詞・活用の種類	教科書P32～P34を読み、P35の練習問題およびP37の応用問題をとくこと。
第 5 週 ： 教科書の第2章第5回　ら抜き言葉・レタス言葉・さ入れ言葉	教科書P38～P40を読み、P41の練習問題およびP43の応用問題をとくこと。
第 6 週 ： 教科書の第2章第6回　文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	教科書P44～P46を読み、P47の練習問題およびP49の応用問題をとくこと。
第 7 週 ： 教科書の第2章第7回　接続語・指示語と文章	教科書P50～P52を読み、P53の練習問題およびP55の応用問題をとくこと。
第 8 週 ： 教科書の第3章第8回　類義語・対義語	教科書P58～P60を読み、P61の練習問題およびP63の応用問題をとくこと。
第 9 週 ： 教科書の第3章第9回　動詞の自他・視点	教科書P64～P66を読み、P67の練習問題およびP69の応用問題をとくこと。
第10週： 教科書の第3章第10回　文体、話し言葉・書き言葉	教科書P70～P72を読み、P73の練習問題およびP74の応用問題をとくこと。
第11週： 教科書の第3章第11回　コロケーション	教科書P76～P78を読み、P79の練習問題およびP81の応用問題をとくこと。
第12週： 教科書の第4章第12回　部首・音訓・熟語	教科書P84～P86を読み、P87の練習問題およびP89の応用問題をとくこと。
第13週： 教科書の第4章第13回　仮名遣い・送り仮名	教科書P90～P92を読み、P93の練習問題およびP95の応用問題をとくこと。
第14週： 教科書の第5章第14回　総合問題　①	教科書P98～P103の総合問題をとくこと。
第15週：	

教科書の第5章第14回　総合問題　②	第15週　授業終了後、第16週の期末試験に備えて半年間で学んだ授業内容を再度振り返り、必要なまとめや補充を行い、疑問点等については自分で辞書や参考書を使って調べておくこと。教員への質問も積極的に視野に入れること。
第16週：期末試験 第1週から第15週までの授業内容についての試験を行います。	第16週　試験終了後、試験内容を再度検討し、答えられなかった箇所については担当教員への質問等によって正解が得られるよう努力する。

授業の運営方法	（1）授業の形式	「演習等形式」
	（2）複数担当の場合の方式	「複数クラス方式」
	（3）アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	ふだんの生活の中で何気なく使っている日本語にたいして意識を高め、日本語として自然な表現に関心をもち、一般社会人としての十分なコミュニケーションが行えること。
【知識・理解】	日常の言語的コミュニケーションに必要な、日本語の基礎的な理解力と文章表現力とを有すること。
【技能・表現・コミュニケーション】	日常の言語的コミュニケーションを十分に行うために必要な日本語の運用能力を備え、相手にわかりやすく説明できること。
【思考・判断・創造】	日常の言語活動において的確な言葉を選択する能力や、適切な言葉によって深く掘り下げて考える能力が身についていること。

〇成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等（テスト）**	**レポート・作品等（提出物）**	**発表・その他（無形成果）**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	**25点**		**30点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。	**15点**			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	**15点**			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	**15点**			

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 （提出物）	
発表・その他 （無形成果）	